

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	大失敗 ～Just The Way You Are～
まちづくり活動名	ひらきたのコミセンだがしやさん いいよ
活動地域	平針北学区
活動の背景	平針北学区には、 ・ 放課後に子どもが安心して立ち寄れる場所がない ・ 高齢者や障害児（医療的ケア児を含む）とその家族が孤立しやすい ・ 子どもが地域の活動に参画する機会が少ない という課題があります。 PTA 活動を通じて、地域の温かさと支え合いを実感し、訪問看護師として高齢者の生活に寄り添う中で、「日常的に安心して集える場所」「顔の見える関係」が地域の安心につながると強く感じました。 そこで、誰でも入りやすい駄菓子屋をコミュニティセンターで開き、交流・防災・見守り・子どもの参画 を同時に育む活動を行います。 子どもが地域の中で役割を持ち、挑戦し、失敗しても「いいよ」と言ってもらえる環境は、学校教育とも連動した学びの場になります。
目的・目標	■目的 子ども・高齢者・障害児（医療的ケア児を含む）とその家族が安心して集い、地域のつながりと防災力を高める居場所をつくとともに、子ども自身がまちづくりに参画し、地域の一員として役割や挑戦を経験できる場を育てる。 ■目標 ・ 月1～隔週で定期開催 ・ 子ども・高齢者・障害児家庭が気軽に参加できる雰囲気づくり ・ 学校・福祉協議会・保健センター等と連携した広報 ・ 子どもが準備・運営に主体的に関われる仕組み作り ・ 中学生・高学年の参画機会の創出 ・ 学校外でのコミュニティスクールの実践 ■短期的成果 ・ 駄菓子屋が「安心して集える居場所」として定着 ・ 顔の見える関係が増え、防犯・見守りにつながる ・ 学校に居場所を見つけにくい子どもが地域で安心できる場が生まれる ■中長期的成果 ・ 学校外コミュニティスクールの定着 ・ 高齢者の引きこもり予防 ・ 子どもの自己肯定感・役割意識の向上 ・ 指定避難所でもあるコミュニティセンターが日常的に親しまれ、防災意識の向上

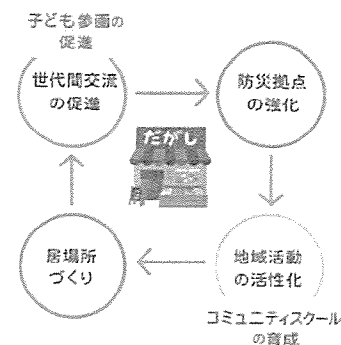
	● 子ども主体の企画や地域活動への発展 ● 地域の基盤強化、災害に強い学区づくりに寄与 ● 他学区へ展開の可能性	
活 動 内 容	【準備段階】 ● 学区連絡協議会・学校・福祉関係者と協力体制を整える ● 子ども・高齢者と一緒に看板・駄菓子箱・広報物などを作成 ● 団体口座開設、寄付依頼資料の作成 ● 子どものアイデアを反映し、挑戦できる環境を整える ● 地域の大人や先生が子どもの試行錯誤を見守る体制づくり 【実施段階】 ● コミセンで定期的に「ひらきたのコミセンだがしやさん いいよ」を開催 ● オープニング・季節イベント（水遊び・お月見どろぼう・クリスマス等）の実施 ● 学校・福祉協議会・保健センター・介護サービス・訪問看護ステーション等へ広報 ● 外出しにくい高齢者・障害児（医療的ケア児含む）家庭との交流機会づくり ● 子どもが店番・レジ補助・駄菓子補充・声かけなどを担当（担当しやすいきっかけを作る） ● 先生・支援者が立ち寄り、子どもの挑戦を学校外で把握できる環境づくり	
活 動 予 定 期	2026 年 6 月 ～ 2027 年 2 月	
助 成 金 交 付 申 請 額	50,000 円	※1 回目（上限 5 万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・ 地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・ 自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・ 活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・ 活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
平針北学区では、子ども・高齢者・障害児（医療的ケア児を含む）とその家族が、安心して立ち寄れる日常的な居場所が不足している。特に、学校に居場所を見つけにくい子どもや、外出しにくい高齢者・障害児家庭にとって、地域の中で自然に交流できる場が求められている。 駄菓子屋を活用した居場所づくりは、 ● 世代間交流の促進 ● 防犯・見守りの強化 ● 指定避難所であるコミュニティセンターへの親しみの向上 ● 地域の基盤強化（災害に強い学区づくり） といった地域課題に直接応える取り組みである。 また、平針北学区では、子どもが地域活動に参画し、大人と協働する機会がまだ多くない。子どもが役割を持ち、挑戦し、失敗しても受け止めてもらえる環境は、地域の未来を担う人材育成にもつながる。 活動の実施にはコミュニティセンターの使用料など初期費用が必要であり、助成金は活動開始の大きな支えとなる。さらに、公的助成を受けていること自体が、地域住民にとって「安全で信頼できる場」であるという安心感につながる。	

審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
● 活動内容が具体的で、準備段階から実施までの流れが明確 ● 放課後～夕方（14：30～18：00）の短時間開催とすることで、運営側の負担を抑え継続しやすい ● コミュニティセンターの立地（大きな公園の前）により、子どもが立ち寄りやすい ● 必要に応じてボランティアを募り、無理のない運営体制を整える ● 開催場所（和室・ロビー・会議室・公園）や頻度は状況に応じて柔軟に調整可能 ● 子どもの挑戦の場として、駄菓子屋は敷居が低く、子どもの参画の入り口として最適	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
まずは定期開催を確実にやり、子どもたちの口コミで参加が広がることを期待している。運営に慣れてきた段階で、福祉協議会・保健センター・介護サービス・訪問看護ステーション・障碍児支援 NPO などへ広報範囲を広げ、地域全体のつながりを強化する。 ・ お月見どろぼうなどのイベントを通じて、外出しにくい高齢者や医療的ケア児家庭との交流を促進 ・ 中学生と協力し、資金調達や運営を一緒に考える「挑戦と学びの場」へ発展 ・ 高齢者の引きこもり予防や、デイサービス利用者の散歩先としての活用も期待 ・ 学校や行政が地域へアウトリーチするための「日常的な接点」となり、子どもや家庭の小さな変化に早期に気付ける環境が生まれる ・ 学校に居場所を見つけにくい児童生徒に対して、学校外での関係構築が可能になり、コミュニティスクールの理念を実質的に推進 ・ 行政・福祉機関にとっても、地域の声を直接拾える場となり、支援につながる可能性が高まる ・ 子どもが運営や企画に参画することで、子ども主体のイベントやまちづくり活動へ発展 ・ 子どもが地域の大人と協働する経験を通じて、世代間交流が深まり、地域全体のつながりが強化 ・ 子どもが企画した取り組みが定着することで、持続可能なまちづくりの担い手育成につながる ・ 成果が出れば、他学区への展開も可能 「交流・安心・防災・連携」を同時に育むことで、地域基盤の強化に寄与する活動である。	



3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
平針北コミュニティセンター運営委員会	開催できる曜日を調整する必要がある 運用方法や物品の管理方法について確認が必要 2025.12
平針北学区連絡協議会	活動の相談と協力をお願い
平針北小学校	活動の相談と協力をお願い 2025.12
天白土木事業所	活動の相談と協力をお願い

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2026	4	打ち合わせ	
	5	申請書提出	団体口座の相談（銀行へ） 広報資料案を検討、インスタ開設準備
	6	助成決定後打ち合わせ 第1回準備開催 6/30	寄付のお願い資料作成 団体口座準備 広報の検討（インスタ運用など） 「いいよ」開店準備のお知らせを学校と地域にお願いし、開店準備を行う （看板、駄菓子箱の箱、レイアウトの検討、広告の作成、イベントの企画） （駄菓子屋開催）
	7	第2回準備開催 7/28 （第3回準備開催）	開店準備を行う （看板、駄菓子箱の箱、レイアウトの検討、広告の作成、イベントの企画） （駄菓子屋開催）
	8	「いいよ」第1回開催 8/25	オープニングイベントを実施 駄菓子屋開催
	9	「いいよ」第2回開催 9/29	駄菓子屋開催 （防災イベント）
	10	「いいよ」第3回開催 10/27	駄菓子屋開催 （地域の大人・先生の趣味、特技イベント）
	11	「いいよ」第4回開催 11/24	駄菓子屋開催 （運動会イベント）
	12	「いいよ」第5回開催 12/22	駄菓子屋開催 （クリスマスイベント）
2027	1	「いいよ」第6回開催 1/26	駄菓子屋開催 （お正月イベント・昔あそび）
	2	「いいよ」第7回開催 2/16	駄菓子屋開催 （節分、バレンタインイベント）
	3		3/5（金）実績報告・書類提出 成果報告会

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				50.000
活動経費の内訳	使用料及び貸借料	活動準備開催	コミセン使用料（1700円/回）×3回	5.100
	印刷製本費	駄菓子屋開催	コミセン使用料×7～10回	17.000
			チラシ（駄菓子屋紹介、適宜イベント案内）	5.000
	消耗品費		ビニール袋×500枚	500
			カラーペンセット（ポップ作成用）×3	5.000
			油性ペン（黒）×5	500
			スケッチブック（アイデア帳）	1.000
			ファイル（アイデア保存用）×2	3.000
			模造紙、A3用紙	2.000
			付箋	1.000
			シール	1.000
			ビニールテープ（ケース作成用）×10	1.000
			セロテープ	500
			ビニールテープ	500
			ビニール紐・麻紐	500
			ゴミ袋（資源・可燃）×10回分	1.000
			ティッシュ	1.000
			ウェットティッシュ	1.000
			ホッチキス	200
			はさみ×5	500
			お金収納ケース	500
			買い物かご×10	2.000
			駄菓子や物品を保管する大きなケース×3個	10.000
			ブルーシート	1.000
			看板（開催の目印として）	3.000
支出合計				63.800

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

